



下野 治代
(教育サービス部
教育サービス課 課長)

第6回 JQA人のオフタイム

ラグビーの魅力は「互いを尊重する文化」

—“5つのコアバリュー”自らの行動規範に—

昨年のフランス大会も大いに盛り上がったラグビー・ワールドカップ。小学生のころからラグビーを観てきたという下野 治代は、日本代表チームへの熱い思いを語り出すと止まらない。もしも、また日本でワールドカップが開催される際には、ボランティアとして大会運営にも“トライ”したいと話す下野に、ラグビーの魅力や思い出を聞いた。

ラグビーを好きになったきっかけは？

私が子どものころ、母が第1回のワールドカップ（1987年開催）をきっかけにラグビーにはまり、テレビと一緒に観始めました。

ラグビーのどんなところに魅力を感じている？

日本でラグビー用語としてよく知られているものに「ノーサイド」という言葉があります。激しい肉弾戦を繰り広げている選手たちも、試合が終わったらにこやかに握手をし、健闘をたたえ合います。ゲーム自体の面白さはもちろん、お互いを尊重し、高潔であろうとするラグビーの文化がとても好きです。また、ラグビーでは、大切にしている価値観として「5つのコアバリュー」を掲げています。「品位・情熱・結束・規律・尊重」という5つの言葉で、自分にとってもある種の行動規範になっているのかなと感じます。



5つのコアバリューが書かれたお気に入りのTシャツ

これまでで一番の思い出は？

とても一つには絞れないので、最近のワールドカップに関する思い出をいくつか…。

2011年ニュージーランド大会：日本対ニュージーランド戦を現地で観戦しました。その年の2月、ニュージーランドではクライストチャーチで大きな地震があり、日本では東日本大震災があったばかり。クライストチャーチと東北への応援メッセージをボードに書いて掲げていたところ、国際中継に映り、

帰国後に職場で「映ってたね！」と声を掛けられました。2015年イングランド大会：何といても「ブライトンの奇跡」です。第1回大会以来ワールドカップで勝ったこと



国際中継に映った被災地への応援メッセージを掲げる下野

の優勝経験を持つ南アフリカから勝利。夜中にひとりテレビで観戦していたのですが、一進一退の試合展開に就寝中だった家族を「この試合は見た方がいい」と起こしました。試合終了後は号泣。ワールドカップで負け続けてきた日本代表がようやく勝ち、しかも相手が南アフリカ。感無量でした。

2019年日本大会：「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」が大会キャッチコピー。自分にとってもまさにこの言葉どおりの大会でした。予選プールでは日本戦2試合を含む5試合を、決勝トーナメントも6試合を現地観戦。日本代表はベスト8で敗退してしまいましたが、史上最高の成績を挙げたチームに心から感謝しました。また、この大会は文房具などのグッズが非常に豊富だったため、過去最高の金額をグッズにつき込みました。買い込んだグッズのいくつかは、今も職場のデスクに飾っています。

今後の目標や野望などあれば教えてください。

次回のワールドカップはオーストラリア、その次はアメリカ開催です。また日本で開催されるかどうかは分かりませんが、今度日本で開催されるときは、ボランティアとして大会運営にかかわりたいです。 ■